

ヴェイチと神奈川植物 3

小 原 敬

English Gardener J. G. Veitch and His Deeds on the Flora of Kanagawa

Takashi OBARA

3. 日本の樹木とフロラにかんする追記

針 葉 樹

おそらく、日本国を構成する諸島群のように、球果植物の非常に多くの種類を生ずる同様の地域は世界中に存在しないであろう。南の長崎から北の箱館まで、松柏類はどこでも豊富で多くの種類をもっている；外国人が今日まで探検できたのはそれらの島島の極めて狭い部分なので、おそらく内部の多くの山岳部には多数のまったく新らしく、これまで発見されていない種類が生育しているであろう。

日本人は常緑樹の偉大な賛美者であり、それらを最良の状態で栽培するのにいろいろ手をかける。建築と普通の用途に用いる材木の大きな部分は針葉樹である。年間需要は帝国の全地域を通じて非常に大きく、材木のストックが減少しないように、地主たちが年毎に林業樹木のある種類の植付けを強いられていることがそれを物語っている。針葉樹はまた装飾の目的で非常に多く用いられている。スギ、ヒノキ、コノテガシワなどの刈込生垣は極めて普通であり、ほとんどの庭園で松柏類の種類を含まないものを見かけることはなく、その多くはほとんどグロテスクな形に刈込まれ仕立てられている。

この国を横断する主要街道は両側に極めて一般的に針葉樹の並木が植えられている。アカマツ、クロマツ、スギ、アスナロは多分この目的で普通に用いられている種類であろう。これらの樹木は時たましか切込まれないので大形になり、また最も美しい典型的樹姿になる。

全体として、針葉樹は日本では最も有用で最も一般的に用いられている樹木である。旅行者達によって発見された大部分の種類は、現在ヨーロッパの庭園に導入され、それらの大多数はわれわれの冬期の厳しさに耐える十分な耐久性を立証され、それはほどなく、こ

の国に固有の多くの美しい種類がわが国の公園にあまねくゆきわたり、そしてそれらの樹木が日本における同じように繁茂するだろうことを確信する。

つぎに日本列島からもたらされたものとして記録された主要針葉樹およびその他の種類のリストを掲げる。

1. - [イラモミ：マツハダ] *Abies Alcoquiana* [*Picea bicolor* (MAXIM.) MAYR.] 気品の高い樹木で、オールコック氏が富士登山中、1860年に発見し、彼の栄誉をたたえ命名された。富士山の標高 6,000-7,000 フィートに生育し、樹高90-100フィートに達する。

2. Saga-momi [サガモミ=Saka-momi サカモミ=モミ] *Abies bifida* [*Abies firma* SIEB. et ZUCC.] 葉の先端が2尖裂した特殊な変異種である。ただ江戸と神奈川の庭園に栽植されているのを見るだけである。[今日ではモミの若木と考えられている]

3. Momi [モミ], *Abies firma* 山岳地方に普通の樹木で、標高 3,000-4,000 フィートに生育している。樹高80-100フィートに達する。

4. Itsuga [Tsuga ツガ] *Abies Tsuga* [*Tsuga Sieboldii* CARR.] 富士山の標高 6,500 フィートに生育が見られる。樹高80-100フィートに達し、用材樹として多大の価値がある。

5. Jesso matsu [エゾマツ] *Abies jezoensis* [*Picea jezoensis* (SIEB. et ZUCC.) CARR.] この樹は蝦夷島に産し、樹高60フィートに達する。

6. Fusi-matsu [フジマツ=カラマツ] *Abies leptolepis* [*Larix Kaempferi* (LAMB.) CARR.] 富士山の標高 8,000-8,500 フィートに見出される。この山の最高の標高地に生育する樹木として注目される。その最高樹高は40フィートであるが、山を登るに従って3フィートの灌木に矮小化する。

7. - [エゾマツ] *Abies microsperma* [*Picea jazoensis* (SIEB. et ZUCC.) CARR.] 本種はこれまで、樹高20-30フィートに達するのが見られる箱館付近でのみ見出される。

8. Tora-momi [トラモミ=ハリモミ] *Abies pilota* [*Picea polita* (SIEB. et ZUCC.) CARR.]

日本北部の山岳地帯に生育する大形の樹木である。樹高は80-100フィートに達する。[本種は本州(東北部、中部、近畿)、四国、九州に産する]

9. - [シラベ] *Abies Veitchii* 本種は樹高100フィートを超えて生育し、富士山の標高6,000-7,000フィートで見られる。

10. Siwa [シワ=コノテガシワ] *Biota orientalis* [*Thuja orientalis* L.] 樹高18-20フィートの低木。江戸付近で普通に見られる。

11. Ito-sugi [イトスギ=イトヒバ] *Biota pendula* [*Thuja orientalis* L. var. *pendula* PARL.] 箱根山地に見られる低木。装飾目的で庭園に広く栽植されている。

12. Isa-bo-hiba [Tsa-bo-hiba チャボヒバ=カマクラヒバ] *Biota japonica* [*Chamaecyparis obtusa* SIEB. et ZUCC. var. *breviramea* MAST.] 矮性の低木で、庭園に栽植している。

13. - [イヌガヤ] *Cephalotaxus drupacea* [*Cephalotaxus Harringtonia* (KNIGHT) K. KOCH f. *drupacea* (SIEB. et ZUCC.)]

樹高35-40フィートに生長し、日本南部の山岳地帯に産する樹木。

14. Inu-kaya [イヌガヤの園芸品] *Cephalotaxus pedunculata* [*Cephalotaxus Harringtonia* (KNIGHT) K. KOCH f. *Harringtonia*] 樹高20-25フィートに生長する樹木。

15. - *Cephalotaxus umbraculifera* [*Taxus baccata* L. var. *Dovastonii* CARR.? トヴァストニイ?] [本種は初め日本または中国産と誤認されていたと云う]。

16. Sugi [スギ] *Cryptomeria japonica* 日本のシーダー。多分帝国で最も普通の針葉樹。樹高80-100フィートに達し、非常に真直ぐに伸びる。本種は長崎から箱館までの全地域に見られる。数多くの変種が庭園に栽植されている。

17. Liu-kiu momi [リュウキウウモミ=コウヨウザン] *Cunninghamia sinensis* [*Cunninghamia lanceolata* (LAMB.) HOOKER] 非常に優美な樹木で、下垂

した枝をもち、樹高20-25フィートに達する。

18. - [イブキまたはその変種ハイビャクシン] *Juniperus japonica* [*Juniperus chinensis* L.] 矮小な低木で、日本のほとんどの地域で見出される。

19. - [ネズ] *Juniperus rigida* 優美な樹木で、樹高20-30フィートに達し、箱根山塊と熱海で見られる。ビャクシン属のその他のいくつかの種は植物学者によって未だ記載されていない。

20. - *Nageia cuspidata* 矮小な樹木で、蝦夷[北海道]では野生状態で見られるという。江戸近郊の庭園に栽培されている。[本種は学名の形容語、樹形、産地などから推定して、多分イチイ(*Taxus cuspidata* SIEB. et ZUCC.) かその変種のキャラボク(var. *nana* HORT.) を指しているものと思われる]

21. Nagi [ナギ] *Naegia japonica* [*Podocarpus nagi* ZOLL. et MORITZ.] 樹高30-40フィートに生長する。内陸部に見られ、また江戸の庭園に栽植されている。

22. Aka-matsu [アカマツ] *Pinus densiflora* この国で最も普通の松の一つで、材は非常に一般的な用途をもっている。樹高は40-50フィートに達し、帝国の全域にわたり見られる。ロジンと墨は共に本種と次種から製造される。

23. Wo-matsu [オマツ=クロマツ] *Pinus Massoniana* [*Pinus thunbergii* PARLAT.] 次種に非常に似ているマツであるが、一層大形になる。

並木に非常に広く植えられているし、また盆栽や枝を水平に仕立てられ好まれる種類である。

24. Wiomi-matsu [Wumi-matsu 海松 チョウセンゴヨウ、チョウセンマツ] *Pinus* [*Pinus koraiensis* SIEB. et ZUCC.] 大形の樹で庭園に栽植されているが、外国人がもたらしたものであるがこの地域の野生状態では見られない。

25. Go-yo-matsu [ゴヨウマツ=ヒメコマツ] *Pinus parviflora* 箱根山地に生育する種で、庭園に多く栽植されている。樹高30-40フィートに生長する。

マツ属のいくつかの他の種と変種はまだ記載されていない。それらのうちで最も特異なものは Shi-ro-y-matsu [シモフリゴヨウ; var. *variegata* MAYR] で、葉に斑が入っている。

26. Maki [マキ=ラカンマキ] *Podocarpus Maki* [*Podocarpus macrophylla* (THUNB.) LAMB. var. *Maki* SIEB.] 小低木で、装飾目的で庭園に栽植している。

27. - [ラカンマキ] *Podocarpus japonica* [Po-

docarpus macrophylla (THUNB.) LAMB. var. *Maki* SIEB.] この樹は日本でシーボルト博士により見出され、庭園に装飾のため栽植されている。

28. Fou-maki [Fon-maki ホンマキ=イヌマキ] *Podocarpus macrophylla*. 本種は樹高20-30フィートに生長する。

29. Hinoki [ヒノキ] *Retinispora obtusa* [*Chamaecyparis obtusa* (SIEB. et ZUCC.) SIEB. et ZUCC.] 本種は日本で最も優良な針葉樹の一つである。木材用および装飾用として共に大きな価値をもっている。日本人は「太陽の樹」とよんでいる。日本列島のほとんどの山岳地帯に普通に生育していて、樹高50-60フィートである。

30. Sa-wa-ra [サワラ] *Retinispora pisifera* [*Chamaecyparis pisifera* (SIEB. et ZUCC.) SIEB. et ZUCC.] 本種は樹高20-30フィートに生長する。非常に優雅で装飾用になるが、用材として価値ある十分な寸法には達しない。

31. Shinobu-hiba [シノブヒバ] *Retinispora squarrosa* [*Chamaecyparis pisifera* SIEB. et ZUCC. var. *plumosa* (CARR.) BEISS.] 矮生の樹木で灰青色 (glau-cous) の葉をもち、庭園に装飾樹として広く栽植されている。[上に併記してある学名 *Retinispora squarrosa* のはヒムロ (*C. pisifera* SIEB. et ZUCC. var. *squarrosa* (SIEB. et ZUCC.) BEISSN. et HOCHST. —を指している]

ヒノキ属のいくつかの種類はまだ記載されていない。

32. Koya maki [コウヤマキ] *Sciadopitys verticillata* 傘形松。小枝の先に輪生する葉をつけていることから、その植物名が由来しているこの特異な樹木は発見されたばかりの種類である。それは枝葉が密生しピラミッド形をした樹木で、Kiudin (?) 国の高野山やその他の山岳地帯に豊富に見出される。最も高い樹高をもち、おそらく70-80フィートあり、根元まで枝でおおわれていて、日本における最も優雅な樹木の一つである。本種とその数多くの変種は、その一つは斑入りの葉をもっているのであるが、日本人の庭園に広く栽植されている。

33. - [キャラボク?] *Taxus tardiva* [*Taxus cuspidata* SIEB. et ZUCC. var. *nana* REHD. ?] 矮生する低木で、暗緑色の葉をもち、日本の山岳と江戸の庭園に見られる。

34. Ara-ra-gi [アララギ=イチイ] *Taxus cuspidata*

密に生長する低木で、暗緑色の葉をつけている。富士山の山麓、箱根山と蝦夷島に見出される。樹高は15-20フィートに生長する。[松浦茂寿氏によれば箱根のものは栽植品であるとのことである]

35. Asu-naro [アスナロ] *Thujaopsis dolabrata* 日本における最も優美な常緑樹の一つである。箱根山地と日本北部の他の山地に見られる。また蝦夷の箱館付近でも見出される。最も上品で優雅な樹木で、樹高30-40フィートで、暗緑色のしなだれた枝をもっている。日本人によって彼らの庭園に広く栽植されていて高く評価されている。その一つは美しい斑入の葉をもつたもの、他により小さな淡緑色の葉をつけているものなど、いくつかの変種がある。

36. Kaya [カヤ] *Torreya nucifera* 本種は樹高25-30フィートに生長する。葉は暗緑色で、種子は日本人により注意深く採集され、仁は食用に供される。普通日本の中部と南部に見られる。

37. - [エゾマツ] *Veitchia japonica* [*Picea jezoensis* (SIEB. et ZUCC.) CARR.] 全く新しい属で、ただ一種知られているだけである。

本種の生育地についてはまだ知られていない。

38. So-cho [Shio-ji シोज] *Fraxinus excelsiore* [*Fraxinus spaethiana* LINGELSH.] 日本のアッシュ。優良な用材で、木目が粗く、重く、丈夫である。この地域で非常に一般的に使用されてはいない。主にオール、弓、矢に用いられている。

39. O-row-schy [U-ru-shi ウルシ], *Rhus vernicifera* [*Rhus verniciflua* STOKES] 日本のワニスの木。樹高15-20フィート、名高い漆が得られる樹液と油と蠟を絞る種子を目的に専ら栽植されている。漆は早春樹から採取される。切付環は漆が滲み出るように樹幹の周りに鋭いナイフで切付け、目的のために置いた容器に集められる。それは初め樹から採ったときは白色で、クリーム様の粘度であるが、空気にさらされると黒変する。この樹の種子は植物蠟を採る近縁種のハゼ (*Rhus succedanea*) に似て、油脂を大量に含んでいる。種子自体から油が採られるが、一方外被物から日本のローソクの大半が作られる物質が採られる。

40. Ka-so [Ko-zo コウソ] *Broussonetia papyrifera* [*Broussonetia Kazinoki* x *B. papyrifera*] 日本のペーパー・ツリー。この低木は主要原料の形で製紙に用いられる樹皮を採るためにもっぱら栽植されている。枝条が落葉して、長さ4-5フィートに伸びる12-1月に毎年刈取られる。樹皮は剥取られた後、数日間水に

浸される。内側の白皮は外皮から取分けられ、前者は良質の紙を製するため選別される。樹皮はパルプに叩解され、後水で洗い夾雑物をのぞく。これで漉槽にパルプがたまり、紙を抄く準備が完了する。紙を抄く際、パルプの部分は縁りに沿って円く非常に静かに（ほとんど目立たないほどに静かに）流し出しながら、抄枠中に取上げられる。純粋なパルプは希望の厚さの紙を作るだけ保留され、残りは流し去る。紙は手作業でつくられ、和紙はほとんど小形の紙葉に抄かれ

るので、それらの抄枠は小形である。この後の工程の次に天日に当てて乾燥し、用途に供される。3種類の植物、すなわちコウゾ、*Buddlea* [恐らくミツマタであろう]、トロロアオイがこの地方で製紙用に栽植されている。前の二種の樹皮と後者の根が用いられている。しかしコウゾは最も大量に、後の二種は比較的小量に混ぜ合わされる。

（平和学園 茅ヶ崎市）